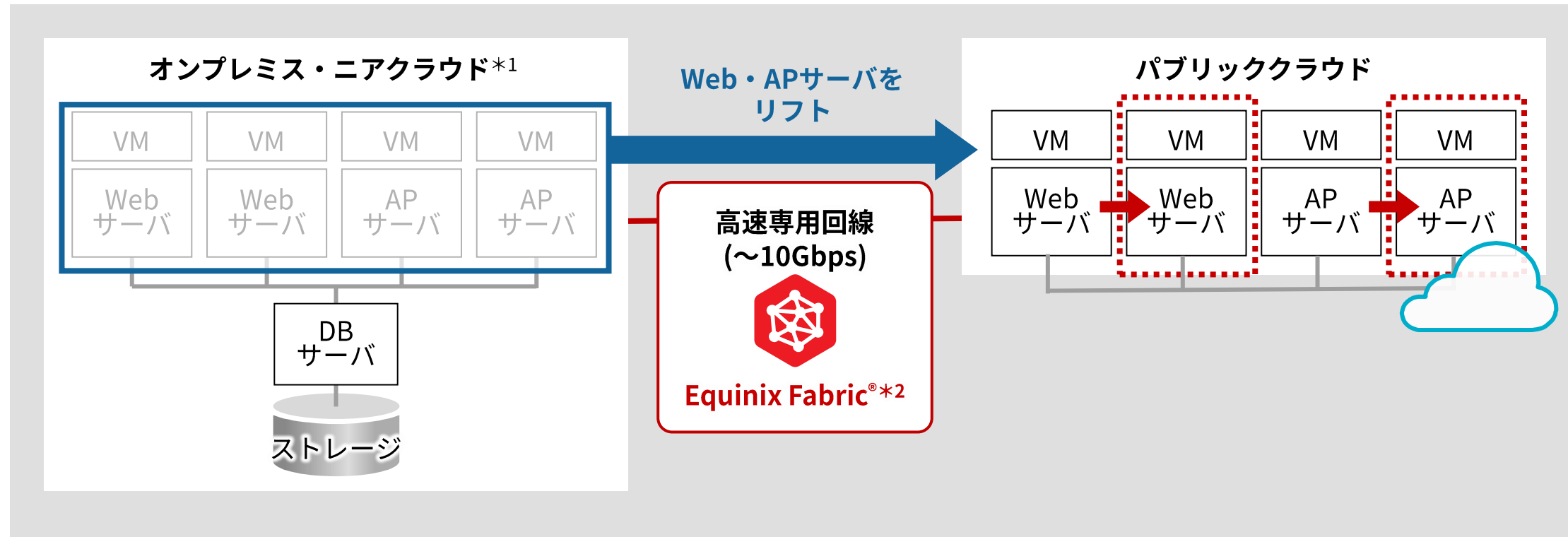


1. Web3階層のリフト

Web・APサーバはパブリッククラウド、DBサーバはオンプレミスで構築。

オンプレミス環境で通常時には使用しないリソースへの投資を抑制したい場合、また、パブリッククラウド環境へ移行する時に既存のDatabase Management System (DBMS) ライセンスを有効に活用したい場合に適しています。



*1: 複数のパブリッククラウドに対し、広帯域・低遅延で接続できるデータセンター

*2: Equinix社が提供するSoftware Defined Networkで複数のクラウドプロバイダーに相互接続可能なネットワーク環境提供サービスで、ニアクラウド環境に配置したデータ基盤から利用することが可能

ポイント

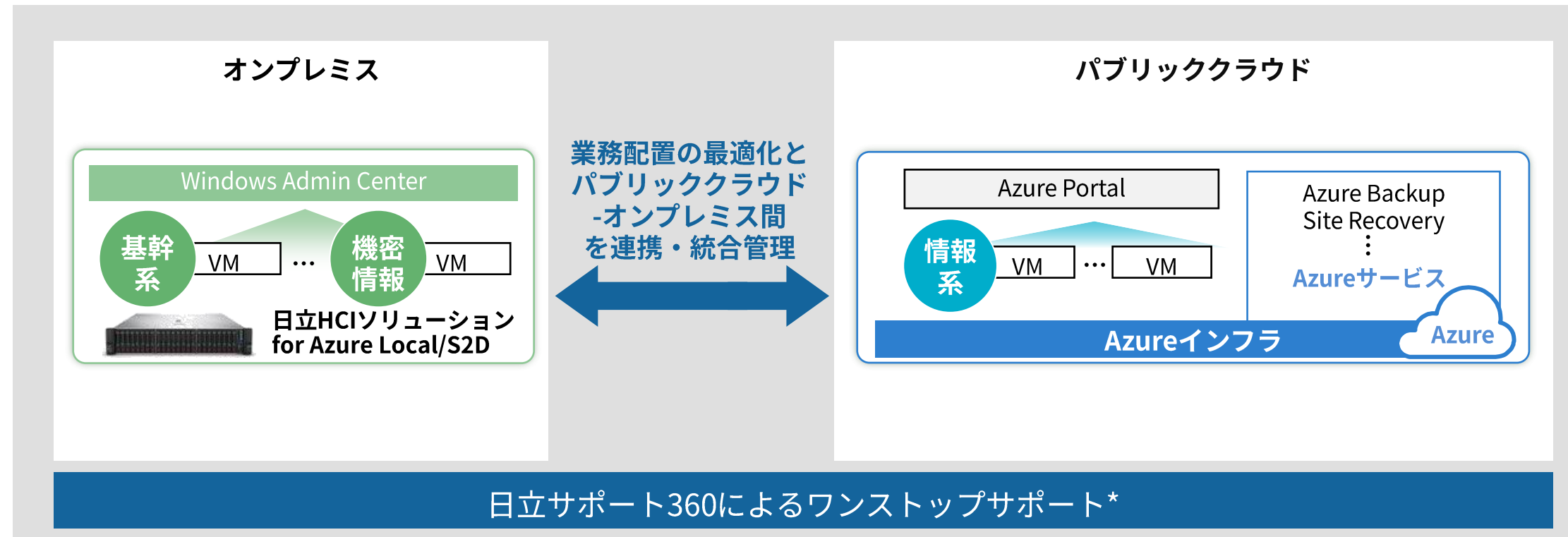
- Web/APサーバはVM単位でパブリッククラウドにリフトし、ピーク時の柔軟なリソーススケールを実現。
- DBサーバは、既存のDBMSライセンスを有効活用するため、オンプレミスに配備。
- ストレージをオンプレミスに配備し、データ・セキュリティ、DB性能を維持。
- パブリッククラウドへの高速回線接続を実現する**Equinix Fabricも合わせて提供**（ニアクラウド）。

2. 段階的なリフト

オンプレミス（HCI）とパブリッククラウドのハイブリッドクラウド環境で業務システムを最適配置。

パブリッククラウドへの初期移行時の費用が高額となり予算と合わない場合、一度にパブリッククラウドへ全面移行には不安がある場合に段階的なリフトが有効です。

HCI : Hyper Converged Infrastructure



*サポート内容などの詳細は弊社までお問い合わせください。

ポイント

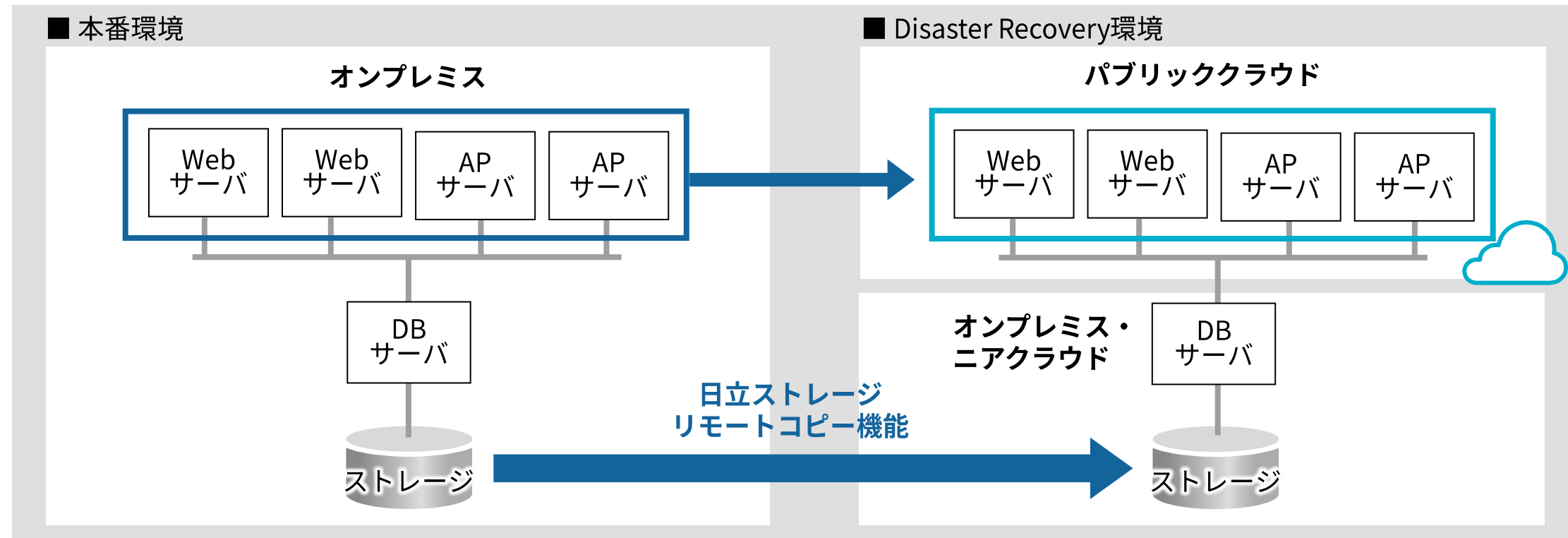
- ・ パブリッククラウドとオンプレミスを連携・統合管理し、コスト削減を実現。
- ・ オンプレミス環境で基幹業務の性能確保やデータ漏えいのリスク低減を実現。
- ・ 将来の移行に備え、移行サービス/ソリューション展開。
- ・ **長年のベンダー協業により構築された手厚いサポート**によりシステム全体の安定稼働を支援。

3. パブリッククラウドと連携した事業継続・災害対策

DR環境のアプリケーションとデータはパブリッククラウドとオンプレミスに分離して、コスト削減。

DR環境をパブリッククラウド上で構築することにより、すべてオンプレミスで構築する場合に比べて、より投資の抑制が期待できます。

DR : Disaster Recovery (災害復旧)



ポイント (Points)

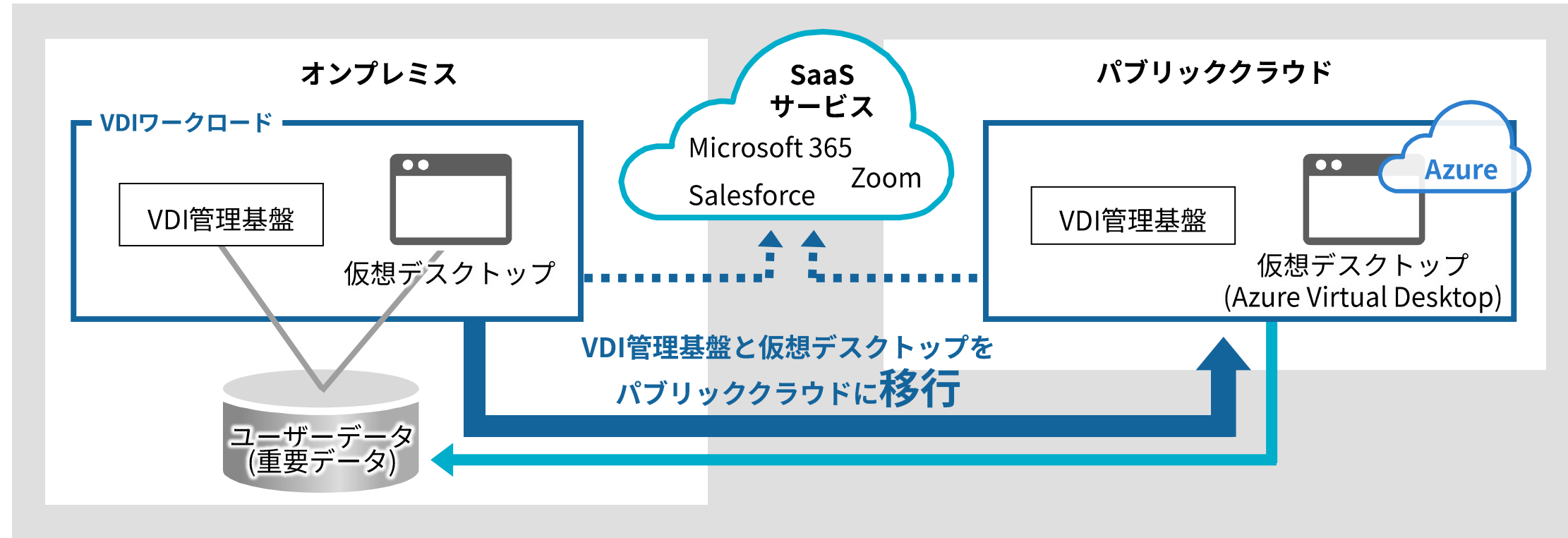
- DR環境のWeb/APサーバはパブリッククラウドへ、DBサーバとストレージはオンプレミス/ニアクラウドへ配置。
- 通常時（DR発動前）はDR環境のサーバを停止し、コストを低減。
- 日立ストレージによる既存DR運用を継続することが可能。
- ディザスターリカバリー環境のデータをオンプレミス/ニアクラウドに置くことで、データの主権を確保することが可能。

4. VDIへのクラウド活用

VDI環境をクラウドとオンプレミスの組み合わせで構築し、データを手元で管理。

クラウドとオンプレミスの組み合わせでVDI環境を実現。VDI管理基盤、仮想デスクトップはクラウドサービスを活用し、お客さま情報や設計データなど、重要なユーザーデータはオンプレミス環境で管理することが可能です。

VDI : Virtual Desktop Infrastructure



※ 自社ポリシーによる基盤管理のVer.管理を行いたいお客さまには従来通りオンプレミスサービスを提供いたします。

ポイント

- VDI管理基盤と仮想デスクトップは、クラウドサービスを活用し運用を軽減。環境の増減にも迅速に対応。
- お客さまの重要データは、オンプレミス環境活用により、自社ポリシーで管理。